

北海道の養蜂をめぐる情勢

令和4年（2022年）11月

北海道農政部生産振興局畜産振興課

1 蜜蜂飼育戸数及び蜂群数の推移

- 本道の蜜蜂飼育戸数は、平成31年以降に150戸台の大台に乗った以降はそれを維持し、令和4年では159戸となっている。蜂群数は、近年増加傾向にあり、令和4年では8,314群となっている。
- 全国の蜜蜂飼育戸数は、平成29年以降増加傾向で推移し、令和2年に1万戸の大台に乗り、4年では11,276戸となっている。蜂群数は、近年横ばいで推移していたが、令和3年以降増加傾向にあり、4年は24万2千群となっている。
(平成24年の養蜂振興法改正により、業として蜜蜂の飼育を行う者以外の蜜蜂の飼育を行う者にも届出義務が拡大されたことから、25年に増加している。)

2 蜜蜂飼育者の飼養規模別分布（北海道）

- 本道の蜜蜂飼育者の飼育規模別分布は、令和4年では10群未満規模が60.4%と最も多く、次いで10～49群が18.9%と、50群未満の飼育者数が飼育者数全体の約8割を占めている。
- 蜂群数の分布では、200群以上の飼育者17戸で、蜂群数全体の約7割を占めている。

3 蜂蜜の需給動向

- 国内の蜂蜜生産量は、蜜源植物の減少やアルファルファタコゾウムシによる蜜源植物の食害などにより、減少傾向が続いていたが、近年横ばいで推移しており、令和3年では2,745トンとなっている。
- 蜜源植物が減少した理由としては、農山村での土地開発が進んだことや、ナタネ等主要蜜源であった農作物の栽培が激減したこと、外来昆虫により蜜を十分に得られない状況が生じていること、品種改良により蜜や花粉の量が減らされた果樹や園芸品種が栽培されていること、山間部では蜜源となる広葉樹が少ないことなどが挙げられる。
- 全国の蜂蜜消費量は、平成2年頃の蜂蜜入り飲料需要により急激に増加したものの、その後縮小し、近年は5万トン前後で推移しており、令和3年では49,844トン、国内自給率は5.5%となっている。
- 国産蜂蜜は、ほぼ全量が家庭用向けであり、輸入蜂蜜は、約6割が家庭用、約4割が製菓・製パン、化粧品などの業務・加工用向けとなっている。
- 蜂蜜の輸入量は、近年4万トン台で推移しており、令和3年では47,132トンとなっている。平成4年から平成19年までの各年で、中国が全輸入量の約9割を占めていたが、アルゼンチンなどからの輸入増加により、近年は7割前後で推移している。
- ニュージーランドから輸入される蜂蜜は、強力な抗菌効果があり世界で最も高級な蜂蜜といわれる「マヌカハニー」を含んでおり、国産蜂蜜卸売価格（1,200～2,500円/kg(令和3年、日本養蜂協会調べ)）と比べても、単価が高い。

○表 1 蜜蜂飼育戸数及び蜂群数の推移

区分/年次		H7	17	27	30	H31	R 2	3	4
北海道	飼育戸数 (戸)	202	109	147	144	150	154	151	159
	蜂群数 (群)	7,157	6,543	7,027	7,024	7,807	8,088	7,955	8,314
	平均蜂群数 (群/戸)	35.4	60.0	47.8	48.8	52.0	52.5	52.7	52.3
全国	飼育戸数 (戸)	7,235	4,790	9,567	9,578	9,782	10,021	10,529	11,276
	蜂群数 (千群)	214	178	213	213	215	213	224	242
	平均蜂群数 (群/戸)	29.6	37.2	22.3	22.2	22.0	21.3	21.3	21.5

資料：農林水産省「養蜂をめぐる情勢」、北海道「畜産振興課調べ」

注：飼育戸数及び蜂群数は、各年1月1日現在

○表 2 蜜蜂飼育者の飼育規模別分布 (令和4年、北海道)

区分/飼育規模		10群未満	10～49群	50～99群	100～199群	200群以上	合計
蜜蜂飼育戸数	実数 (戸)	96	30	10	6	17	159
	構成比 (%)	60.4	18.9	6.3	3.8	10.7	100.0
蜂群数	実数 (群)	229	651	620	887	5,927	8,314
	構成比 (%)	2.8	7.8	7.5	10.7	71.3	100.0

資料：北海道「畜産振興課調べ」(R4.1.1現在)

○表 3 蜂蜜の需給動向 (全国)

(単位：トン、%)

年次	国内生産量	輸入量	うち中国 (割合%)		輸出量	消費量	自給率 (%)
			うち中国	(割合%)			
S40	8,495	6,240	2,676	42.9	54	14,681	57.9
50	6,397	18,091	7,281	40.2	—	24,488	26.1
60	7,225	28,047	18,143	64.7	—	35,272	20.5
H7	3,362	39,200	35,138	89.6	77	42,485	7.9
17	2,892	43,162	39,023	90.4	135	45,919	6.3
27	2,865	36,222	26,411	72.9	29	39,058	7.3
29	2,827	42,821	29,818	69.6	21	45,627	6.2
30	2,826	44,521	31,512	70.8	18	47,329	6.0
R1	2,911	44,788	30,518	68.1	10	47,689	6.1
2	2,929	49,348	33,821	68.5	18	52,259	5.6
3	2,745	47,132	30,887	65.5	33	49,844	5.5

資料：農林水産省「養蜂をめぐる情勢」 ※輸出入量は、財務省「日本貿易統計」

注：消費量は、生産量+輸入量-輸出量。自給率は、国内生産量を消費量で除した数値。

(参考) 蜂蜜輸入量の国別上位国 (令和3年)

順位	国名	輸入数量 (トン)	(割合%)	輸入金額 (百万円)	(割合%)	CIF価格 (円/kg)	課税後価格 (円/kg)
	合計	47,132	100.0%	18,632	100.0%	395	472
1	中国	30,887	65.5%	7,352	39.5%	238	299
2	カナダ	4,390	9.3%	2,437	13.1%	555	632
3	アルゼンチン	3,782	8.0%	1,769	9.5%	468	587
4	ミャンマー	1,376	2.9%	305	1.6%	221	221
5	ニュージーランド	945	2.0%	3,127	16.8%	3,311	3,751

資料：財務省「貿易統計」(農林水産省「養蜂をめぐる情勢」(令和4年11月))

注：課税後価格は天然蜂蜜のWTO協定税率(25.5%)、TPP11税率(15.9%(1~3月)及び12.7%(4~12月))等により算出。

4 蜂蜜等の生産量の推移

- 本道の蜂蜜生産量は、平成30年以降増加傾向にあり、令和3年は前年比26%増の530トンで、全国の蜂蜜生産量（2,745トン）に占める割合は19%と、全国第1位となっている。
- 蜜ろうの生産量は、令和3年で前年比10%減の6,221kgと、全国の生産量（18,699トン）の約3割を占めている。ローヤルゼリーの生産量は、前年比67%減の29kgとなっている。
 - ※「蜜ろう」は、ろうそく、ワックス、化粧品、クレヨン等の原料として使用される。
 - 「ローヤルゼリー」は、健康食品や化粧品の原料として使用される。

5 蜜源植物の植栽面積の推移（北海道）

- 本道の蜜源植物の植栽面積は、平成25年をピークに減少傾向にあったが、令和3年は、前年比49%増の27,699haで、植物別では、シナ、アカシア、クローバーの順となっている。
- 全国の植栽面積では、令和3年で11.7万haとなっており、みかんとりんごで全体の約4割を占めている。

○表 4 蜂蜜等の生産量の推移

区 分/年 次		H 7	17	27	28	30	R 1	2	3
北海道	蜂蜜 (トン)	436	355	288	362	284	307	419	530
	蜜ろう (kg)	3,625	8,998	4,476	5,872	3,204	5,097	6,919	6,221
	ローヤルゼリー (kg)	707	322	45	120	55	104	88	29
全国	蜂蜜 (トン)	3,362	2,892	2,865	2,754	2,826	2,911	2,929	2,745
	蜜ろう (kg)	67,990	37,563	21,922	23,181	22,881	21,769	22,858	18,699
	ローヤルゼリー (kg)	6,094	3,916	2,813	2,738	2,497	2,363	2,991	2,083

資料：農林水産省「養蜂をめぐる情勢」（令和4年11月）、北海道「畜産振興課調べ」

○表 5 蜂蜜生産量の全国上位 5 県（令和 3 年）

区 分	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	全 国
	北海道	熊本県	長野県	秋田県	青森県	
生産量 (トン)	530.1	237.1	188.0	173.8	131.5	2,745
割合 (%)	19.3	8.6	6.8	6.3	4.8	100.0

資料：農林水産省「養蜂をめぐる情勢」（令和4年11月）

○表 6 蜜源植物の植栽面積の推移（北海道）

(単位：ha)

年 次	クローバー	アカシア	シナ	シコロ	その他	合 計
S 61	10,593	2,140	4,907	—	12,287	29,927
H17	4,107	3,624	3,045	162	8,729	19,667
22	2,805	2,414	3,612	763	4,100	13,694
27	2,830	3,494	4,358	1,725	10,634	23,041
29	2,245	4,470	5,773	1,985	8,969	23,442
30	2,795	4,679	5,389	1,604	9,784	24,251
R 1	1,888	3,537	5,224	1,301	9,190	21,140
2	1,848	3,170	5,493	1,064	7,010	18,585
3	2,464	5,186	6,580	2,425	11,044	27,699
(割合%)	8.9	16.7	24.7	6.2	43.5	100.0

資料：北海道「畜産振興課調べ」

○表 7 蜜源植物の植栽面積（令和 3 年、全国）

区 分	みかん	れんげ	アカシア	りんご	その他	合 計
面積 (千ha)	30.8	3.0	6.4	21.3	55.7	117.2
割合 (%)	26.3	2.6	5.5	18.2	47.5	100.0

資料：農林水産省「養蜂をめぐる情勢」（令和4年11月）

6 花粉交配用蜜蜂の利用状況（北海道）

- 道内の花粉交配用蜜蜂の利用状況は、令和3年度では利用園芸組合数は延べ113件、園芸組合を利用しない個人農家等も含めた利用農家数は延べ1,866戸で、導入群数は延べ12,786群となっている。

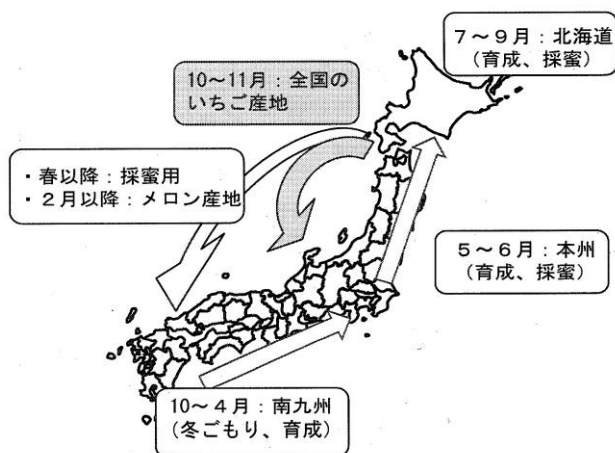
※ 施設園芸や果樹等の農家では、蜜蜂を花粉交配用に利用しており、花粉交配用の蜜蜂は、毎年養蜂業者から施設園芸農家等にリースや販売により供給されている。

7 蜜蜂転飼許可の推移（北海道）

- 養蜂振興法に基づく道外から本道への転飼許可（1次転飼）について、令和3年の許可件数は237件、蜂群数では32,130群となっている。
- また、北海道蜜蜂転飼条例に基づく道内での転飼許可（2次転飼）について、令和3年の許可件数は246件、蜂群数では39,119群となっている。

※「転飼」とは、蜂蜜もしくは蜜ろうの採取または越冬のため蜜蜂を移動して飼育することをいう。

【道外からの本道への転飼の例】



資料：農林水産省「養蜂をめぐる情勢」

8 蜜蜂の衛生管理

- 腐蛆病は、年によって変動はあるが、家畜保健衛生所の指導や養蜂業者による自主防疫の実施により発生件数が減少している。
- 本道の発生状況は、平成24年から令和3年までの直近10年間で3戸5群の発生が見られたものの、平成30年以降は発生していない。

※ 腐蛆病（ふそびょう）とは、家畜伝染病予防法上の法定伝染病で、病原菌（細菌）が蜜蜂の口から入って幼虫（蛆）の体内で繁殖し、腐っていく疾病。

○表 8 花粉交配用蜜蜂の利用状況（北海道）

（単位：組合数、戸、群）

区分 / 年度		H17	H22	27	29	30	R 1	2	3	
施設園芸	利用組合数	99	137	82	88	76	88	55	63	
	農家戸数	2,314	2,002	1,252	1,723	1,866	1,534	1,323	1,248	
	導入群数	10,073	7,722	7,647	10,562	10,506	8,689	10,509	10,899	
施設園芸以外	果樹類	利用組合数	5	10	9	5	6	9	7	8
		農家戸数	249	336	84	142	144	109	107	101
		導入群数	652	1,052	350	457	471	244	728	653
	その他	利用組合数	47	54	45	36	36	47	26	42
		農家戸数	1,087	776	468	323	455	543	319	517
		導入群数	3,133	1,686	612	683	989	1,047	776	1,234
合計	利用組合数	151	201	136	129	118	144	88	113	
	農家戸数	3,650	3,114	1,804	2,188	2,465	2,186	1,749	1,866	
	導入群数	13,858	10,460	8,609	11,702	11,966	9,980	12,013	12,786	

資料：北海道「畜産振興課調べ」

注) 購入及び借受の合計。利用組合数、農家戸数、導入群数は、作目ごとの延べ数。

農家戸数には、園芸組合を利用しない個人農家等を含む。

果樹類は、桜桃、りんご、なし、ハスカップの合計。

○表 9 蜜蜂転飼許可の推移（北海道）

（単位：件、群）

区分 / 年次		H22	27	28	29	30	R 1	2	3
1次転飼 (道外→本道)	許可件数	258	257	241	245	237	238	231	237
	蜂群数	36,534	36,379	34,277	35,227	33,979	34,591	32,141	32,130
2次転飼 (道内移動)	許可件数	202	243	242	238	219	242	271	246
	蜂群数	24,491	33,891	34,823	35,206	34,040	38,299	40,897	39,119

資料：北海道「畜産振興課調べ」

○表10 腐蛆病の発生状況（北海道）

（単位：戸、群）

区分 / 年次		H24	25	26	27	28	29	30	R 1	2	3
転飼	戸数	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	群数	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
定飼	戸数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	群数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他 (趣味等)	戸数	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
	群数	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-
本道計	戸数	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
	群数	-	2	-	2	-	1	-	-	-	-
(参考) 全国計	戸数	42	49	57	59	43	30	42	33	39	33
	群数	127	230	168	130	89	74	135	104	127	110

資料：北海道「畜産振興課調べ」、農林水産省「監視伝染病の発生状況」